

## 第6学年〇組 道徳学習指導案

1 主題名 花咲く長所 高学年1－(6) 個性伸長

2 資料名 「宮城道雄」 (文溪堂：6年)

### 3 指導観

- 本主題は、自分の特徴を知って、よい所を伸ばそうとする態度を養うことをねらいとする。自分の特徴とは、他と比べて特に目立つ点であり、長所だけでなく短所も含むものである。自分の特徴を知るとは、その両面を見いだすことである。個性の伸長とは、自分のよい所を発揮しながら調和のとれた自己形成を目指していくことである。

本資料は、盲目というハンディキャップをもちながら、伝統的な邦楽に斬新な手法や考えを取り入れ、箏の演奏家としてまた作曲家としての地位を確立した宮城道雄の半生を描いた話である。本資料の「宮城道雄」は音楽科の鑑賞教材「春の海」の作曲者である。そこで、音楽科との連関を考え、音楽科の箏の実体験を想起させることで興味をもたせられる資料と考える。宮城道雄を題材にした本資料は、目が不自由であったが自分の特徴に気付き、人一倍努力し自分の能力を伸ばしていった主人公の生き方を実感させることができ、道徳的価値の内面的自覚を促すのに有効であると考えられる。

- 本学級の子ども達は、ほとんどの子どもが、好きなことや得意なことがはっきりしており、スポーツ、絵画工作、楽器の演奏、習字などでは、賞賛される機会も多く自他共に長所や実力を認め合っている。しかし、その事を自分のよい所として気が付いていない子どももいる。事前アンケートにおいても「自分のよい所に気が付いていますか。」の問いに対して「気が付いている・少し気が付いている」と答えた子どもが19人、「あまり気が付いていない・気が付いていない」と答えた子どもは13人という結果で、1/3の子どもが自分のよい所に気が付いていなかった。

そこで、本主題を取りあげることは、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばそうとする意欲につながる上で大変意義深い。

- 本時の指導にあたっては、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばそうとする意欲につながるために、音楽科の「日本の音楽を味わおう」の学習と連関させて道徳的実践力を高めていきたいと考える。

そのために、導入においては「春の海」を聴き音楽科の学習を想起させたり、目隠しをして箏をひかせる体験を行い資料を身近なものとして感じとらせることで学習の意欲を高めていく。

展開前段では、主人公の決して恵まれたとはいえない境遇の中でやめたいと思った気持ちと、「ぼくには、音楽の道があるんだ。」と気付き希望をもって新たに努力を始めた気持ちを考えさせる。その心境の変化をハート図を用いた活動を通してとらえさせる。

展開後段では、自分のよい所に気付かせるために自分の長所を道徳ノートに書かせる。さらに、友達の良い所を書いた手紙を渡しより多くのよい所に気付かせる。また、そのよい所を伸ばそうとする意欲を高めるために、友達からの手紙を読んで感じたことを書かせる。

終末では、自分のよい所を伸ばしていこうとする意欲をもたせるような教師の説話をする。

#### 4 本時の目標

- 自分の特徴に気づき、よい所を伸ばそうとする意欲につなげる。

#### 5 準備

資料「宮城道雄」、挿絵、道徳ノート、ハート図、箏、短冊、友達からの手紙

#### 6 本時展開

段階	子どもの学習活動	教師の支援活動	目標の達成度を見取る評価基準
導入	1 「春の海」を聴き、音楽の時間に学習したことを思い出し、宮城道雄について話し合う。	※「春の海」演奏を聴かせ、音楽の学習を想起させる。 ※主人公の気持ちに共感的に理解させるため、体験的活動を行う。	○音楽の学習を想起して、発言をしている。 ・作曲者は宮城道雄だ ・盲目の作曲家だ ・日本の伝統文化の箏を使っている ・日本を代表する作曲家だ
	めあて <b>自分のよい所に気付こう。</b>		
展開前段	2 資料「宮城道雄」を読んで、主人公の心情について話し合う。 (1) 朝鮮に渡り、箏と尺八で生計をたてながら、朝早く箏の練習をしている道雄の気持ちを考える。	※主人公の置かれている状況や心情を捉えやすくするために短冊や場面絵を提示する。 ※主人公の心の揺れに共感させるためにハート図を活用する。	○道雄の特徴を捉えている。 ・目が見えない ・優れた耳を持っている ・音楽に向いている ・箏がうまい ・自然がすき ○朝早く箏の練習をする道雄の気持ちに共感している。
	朝鮮に渡り、箏と尺八で生計を立てながら箏の練習をしている道雄は、どんな気持ちだったでしょう。		・やめたい ・生活を支えながら練習をするのは大変だ
	(2) 「そうだ。ぼくには音楽があるんだ。」と思った時の気持ちを考える。	※自分のよい所を伸ばしていきたいと考えた気持ちに共感できるように道徳ノートに書かせる。	○自分のよい所に気付いて伸ばしていこうとする道雄の気持ちを書いている。 ・音楽しかない ・大好きな自然の音を箏で表現してみよう ・ぼくは、音楽に向いている
	「ぼくには、音楽の道があるんだ。」と考えたとき道雄はどんな気持ちだったでしょう。		
展開後段	3 自分の生活をふり返る。	※自分のよい所に気付かせるために、友達からの手紙を読ませる。	○自分の特徴について書いている。 ・音楽得意。友達からも上手と書いてもらって嬉しかった。だから、もっと練習をしてピアノをうまく弾けるようになりたい。
	自分のよい所はどこでしょう。友達からの手紙を読んでどんなことを感じましたか。		
終末	4 教師の説話を聞く。		

# 7 板書計画

7 宮城道雄



宮城道雄  
春の海  
冒頭の作曲家  
日本を代表する作曲家

めあて  
自分のよい所に気付こう。

宮城道雄  
少年時代視力を失う  
一人倍優れた耳  
音楽に向いている  
自然がすき

朝鮮半島で生計を立てながら、ことの練習をする時

つらい  
やめたい  
仕事をしながらの練習は大変だ  
朝早くから練習するのは無理だ

000  
音楽しかない  
ここでくじけないぞ  
音楽をもっと練習しよう  
自然の音を音楽で表現できるようにになりたい  
自分には、音楽に向いている

「そうだ、ぼくには音楽の道があるんだ。」

「そうだ、自然の音を音楽にするのをめあせう。」

水の姿態・春の海

名曲を演奏す

がんばろう

やめたい





努力      目標      気付き      特徴

# 8 道徳ノート

8 道徳ノート

花咲く長所

めあて  
自分のよい所に気付こう。

宮城道雄

◎ 「そうだ、ぼくには音楽があるんだ。」と考えたとき、道雄はどんな気持ちだったでしょう。

月 日 組 名前

◎ 自分のよい所はどんな所ですか。

自分のよい所

友達からの手紙を讀んで感じたこと

この練習をするとき

②

①



